

会 議 等 記 録 簿

会 議 名	第 4 回 瑞穂町長期総合計画審議会
日 時	令和 2 年 2 月 27 日 (水) AM <input type="checkbox"/> PM <input checked="" type="checkbox"/> 6:30～8:30
場 所	庁舎 2 階会議室 2 - 1
配付資料	<p>【事前配布】</p> <p>資 料 1 : 基本構想の構成について</p> <p>資 料 2 : 第 1 回人口推計結果について</p> <p>資 料 3 : 『未来の東京』戦略ビジョン (抜粋)</p> <p>資 料 4 : 見える化改革報告書「区市町村」(抜粋)</p> <p>【当日配布】</p> <p>参考資料：青少年の主張文集 (高校・一般の部) (抜粋)</p>
議事要旨	
<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 住民意識調査での第 4 次計画の施策評価及び専門部会での意見について</p> <hr/> <p>○事務局より説明</p> <p>○質疑</p> <p>委員： グラフの平均値の位置に誤りがあるのではないかと。</p> <p>事務局： 誤りである。訂正する。</p> <p>委員： 結果を平均値で見ているが、年齢別、地域別でも見ておかないと議論に偏りがでてしまう。</p> <p>事務局： 今回は平均値をお示ししたが、クロス集計により年齢別、地区別のデータも押さえてある。報告書には全てのデータをお示しする。</p> <p>委員： 行政がやるべき施策ができたのかできていないのか、それを行政自身が評価し提示すべきである。住民の意見だけで第 4 次計画の評価ができるわけではない。</p> <p>事務局： 行政評価は基本計画の検討段階でお示しする。</p> <p>委員： 3 年毎に庁議で評価を行っているのではないかと。</p> <p>事務局： 毎月進捗管理の会議は設けている。また、150 事業についての行政評価も毎年行い、集計</p>	

されたところで外部委員の評価も受けている。外部評価の結果はHPにも掲載されている。

委員：

35の施策についてどのような進捗なのかを提示していただきたい。

委員：

元々の評価がどのレベルにあり、長期総合計画でどこまで持っていくかの計画がないことには評価ができない。評価委員をやる中で、評価できるような計画に仕上がっていないということを感じている。

委員：

例えば総合計画の56ページ。保健医療の施策が文章として書かれている。この書かれていることに対して、どの程度実際には進んでいるのかを知りたい。これをやらないことには意味がないように思う。

委員：

事業・取組を行うことが目的なのではなく、例えば今の健康づくりでいうと、実際には地域の中でどのように展開されているのか。その目標値が明確ではない。どういったところに目標値を置くかによっても評価の仕方は変わってくる。

会長：

環境基本計画計画などは毎年評価を行っている。そのようなことを、総合計画でも皆さまにわかるような形で提示していただくといいと思う。是非お願いしたい。

(2) 基本構想の構成について

○事務局より説明

○質疑

委員：

3ページ基本構想の構成図。分野別計画との関連が序論に入っているが、計画の位置づけに入っていた方がよいのではないか。

もう一点、チェックの機能をどのようにするかということ、どこかに項目として追加すべきではないか。行政評価委員会も、令和元年度でいうと、3月まで終わった時点で評価に取りかかる。その際には令和2年度の計画はできあがっており、前年度やったことがまったく反映されない。せっかく評価を行っても1年とびになってしまう。これでは今の時代のスピードに合わないように思う。行政評価の方法の見直しも必要であるし、計画のチェック機能を明確にしておくべきではないか。

もう一点、基本構想から基本計画への結びつきがわかりづらい。基本構想→基本計画→実施計画と反映されることが重要である。

事務局：

これまでの長期総合計画の作り方として、基本計画を束ねて基本構想にしている面があった。それは違うだろうということで考えている。構想のまとめ方のほか、どのようにチェック機能を持たせていくか、各課への意識付けなどもあわせて検討を進めていきたい。

(3) 人口推計結果について

○事務局より説明

○人口減少で直面する影響・問題について

委員：

出生数、死亡数、社会移動の数字を把握・分析し、皆が幸せに生活するための人口確保と施策を考えることが必要だ。

委員：

産業が衰えている。どこかで産業の活性化を図らないことには人口の増加は見込めない。社会への投資を町が行うことが必要だ。

委員：

2065年に減少する。マイナス要因から考えるのではなく、長期的な展望をもった施策を考えることが必要だ。

委員：

死亡数は年間350人。若い人にそれ以上の子どもを産んでもらいたい。絵に描いた餅にならないような、子どもを産み育てられる環境づくりが必要だ。

委員：

人口を増やすためには生産年齢人口を増やす必要がある。そのための目的を持つ（産業をつくる）。市街化調整区域を市街化区域にしていく、土地を活用できるよう用途を変えていくことも必要だ。土地利用が重要になる。

委員：

子育て中に助けてもらえる、安心感のあるまちにすべきである。お金がなくても人のつながりで助け合えるシステムが必要だ。現在の公的な活動はイベント的要素が強いが、個々のつながりによる協働も必要だ。

委員：

中学校34人クラス。今35人。1クラスか2クラスかのぎりぎりのところで、その節点に立っている。子育て世帯が住みやすい施策により児童・生徒が増えることが必要だ。

委員：

税金、地域交通などの面で負のスパイラルに陥っている。用途変更やモノレールの導入を行い、人口増に弾みをつけることが必要だ。

委員：

都などから移転を考えている企業をターゲットに、企業を誘致できないか。住宅地の誘致。

委員：

人口減少の中、生産年齢人口の減少が弱者に影響を及ぼしてくる。基本計画で明るい将来像を描き、人口を増やす。できることを示すことで人が集まる。いかに多様な改革を進めるか。財政や地域での協力が必要になる。

委員：

人口が増えること、子どもが増えること、これをどのように実現するか。今までにない特徴のある施策が必要だ。子育て活動を行う中で、人間形成のための環境づくりが重要であり、子どもたちは特に自然の中で育つことが重要だ。

委員：

農業と各学童が連携して子ども食堂を実施してはどうか。働く母親にとっては気持ち楽になり、瑞穂はよいところという評判につながる。子どもが愛着を持ち、転出人口が減るのではないか。

委員：

人口減少により地域のコミュニティが成り立たなくなる。税金も減り、社会保障の維持が困難になる。若い人が住める町になるために、土地利用政策と産業（働く場）の施策が必要だ。

委員：

様々な課題をITで解決できないか。多様化により、高齢者なども行政支援で戦力となる。アナログとITをつなげる取組が必要だ。

副会長：

児童が1人増えるとクラスが増え、教員が増えると余裕ができよい教育が実践できる。瑞穂の学校のよさを皆で認識できるような取組が必要だ。昔の評判が今でも言われる。皆努力して向上している。

会長：

瑞穂の魅力を住民が認識すること。大人が「みずほ学」を学び、いかによいところをつなげるかが重要だ。

○意見交換

委員：

人口減少となっていないのが日の出町。子育て支援が充実している。若い人にできる範囲で支援をすることが必要ではないか。

会長：

子育て世帯への支援による人口増の取組は、全国で大抵失敗している。子どもが育つと出て行ってしまうという結果に終わっている。日の出町のやり方が参考になるのかは検討が必要だ。

委員：

人口減少は財政を悪化させてしまう。AI、情報技術などにより、行政の負担を減らしていけないだろうか。導入を検討していただきたい。

委員：

生産性のあるところにお金を投資すべきである。

会長：

三重県伊賀市では、「第2次伊賀市地域福祉計画」（平成23～27年度）で「高福祉」を実現するための手段を「高負担」だけに依存するのではなく、「高参加」（住民参加）によって実現することも目指すとしている。

瑞穂町においても様々な計画の実現には、行政だけに依存するのではなく住民の支援（共助）も必要である。この共助の姿勢は、わが町にも存在している。しかし、共助体制を構築できない（つながる・つなげる力不足による）ところに問題があるのではないか。

委員：

人のつながり、コミュニティを優先させたあたたかいまちが必要だ。対面サービスを実施しつつ、費用対効果等を追っていただきたい。

以上